

磐城中正新報

發行日 每月二回 日十五日
郵税共 一部 金拾錢
廣告料 普通部十二字一行情
一回八十錢 場所指定
同二十錢 増
編輯人 安澤榮作
印刷所 磐城市中正新報社

現議員任期最後の 通常縣會本日開會

直ちに議長選挙か 追加豫算は再開初日に

本縣通常縣會は今日十五日開會の減額を見る模様だが其會縣は開會後直ちに議長選の内容は松川浦四倉の兩漁會を行ひ知事が豫算説明を港の修築鮎川疏水復活工事なし豫算審議の休會前に産業道路の改修等の新規事業復舊工事失業救済事業を計上し更に収入の税關漁山村救済資金等の本年度係では藝妓置屋税娼妓賦金豫算を付議して休會とし休の五分減並に人力車税の減會中内務部長は上京本年度税を断行して大に社會政策追加のことに付内務省其の的新味を見せて編成したも他と打合せる言ひ結局知事認められてゐるがなにして再會初日に於て追加豫算案現議員任期最後の會議のこを付議するものと見られてゐるとして土産案の盛り澤山ある向明年度豫算總額は約七百九十萬圓で本年度の追加馬の連中は政民再派を問加豫算災害復舊費失業救済はす口角泡を飛ばして名論思事業費の合計四十萬圓を加論の運發で議場を賑すことへれば八百三十餘萬圓となであらう

四社主催の民議大會

満場立錐の餘地なき 大入満員拍手かつさい

好評裡に終了

福總、磐城大衆、磐城民論時より町町聚樂館に於て開並に本社四社主催の磐城會が當日第一の呼び者民議大會は去る八日午後六たる相馬猫八、田町の美形

連は勿論中島湖洲、大谷龍都合上希望に副ふ事の出来雄、宮、湯本、内郷、鎌田若連の出演及其他各地の天狗連の出演と自稱大小天狗連の飛入があると云ふので人気が人を生み且つ絶好の秋晴れ日和に恵まれて閉會一時間前より入場者續々詰り掛六時の開會には三

利下が利いて 郵便貯金の 金額と人員 が減る

十月一日利下げ断行後一ヶ月の十月十日における郵便貯金の状況は九月末現在高に比して人員では十三萬七現れ其の妙技、妙音、奇聲等に聴衆を熱狂せしめ其の他平藝技連の東八景、現代流行ジャズ、東京行進曲、其の外相馬流山、同二遍返の減少は九月中に一萬五千分、安來節、小原節、新米山、二上新内、尺八合奏、三味線、都々逸等は岡部若波、物見千代子、佐藤馨月下遠野連月、木村光月氏等を筆頭に十數名の諸氏出演を筆頭に十數名の諸氏出演と中島湖洲、大谷龍雄、鎌田若連の出演は何れも満場決定の九月には僅かに四十の喝采を博し午後十一時半七萬八千餘圓の増で最近十演者多數のため折角の飛入ードであると

婦人修養會生る

内郷村大字小島坂本サタ子氏は農村婦人には珍らしき氣配の人にして常に社會の改善と云ふ事に腐心して居る方である國家社會の改善は家庭の改善に據らねばならぬ家庭の改善は一人々々の自覺に俟たねばならぬ夫れには一家の主婦たる者が先づ以て自覺なければなりません然るに女子は男子と異なり身の修養に資する講演や讀書の機會が少いから遂に社會の進歩に乏しくなることになる家庭機軸を取らねばならぬ婦人が此もよらないどうしても今後本年度半町から入營する軍の婦人は自身をより以上に修養して行かなければならぬ夫れには婦人修養會を設立して互に智識の交替又は有識者の講演等を聞くことを通じて三十三名、會費は中町の衆議院議員並に縣會

入營者送別會

十七日縣社で
本年度半町から入營する軍の送別會は恒例に依り來る十七日午前十一時より縣社社議室に於て開會に於て入營軍人は各科を通じて三十三名、會費は中町の衆議院議員並に縣會

平陽女學校長 銅像除幕式

酒井ミヨ子女士の
平陽女學校長酒井ミヨ子女士教育の先覺者として地方より多大の尊敬と其德望有意義なる講演に大内夫人等あり且つ餘興數種あつて平陽女學校校長酒井ミヨ子女士の銅像建設は豫て同校卒業生及職員生徒等が發起し各方面の贊助を得て努力の結果此の程完成したので明十六日午前十時地方の名士數百名を招待し同校々庭に於て盛大なる除幕式を舉行する等

平町の有権者 昨年と増減なし

印刷物の御用は
平南町 磐陽舎へ
平町の上水道工事も愈々去五日より着手、平職業紹介所で登録した失業業者中取り敢ず二十名を採用したが今月末までには順次百名位まで増員する筈で過般残りの失業者を紹介所に招集し其旨申し渡した所何れも歡喜の涙を流し係員に厚く禮を述べて引き取つたと

時事短評

物價暴落不景氣の聲やかましい時に獨り下落しなしいのは官營品の煙草鐵道賃金等他に不景氣回復の萬策を講ずるより之れが値下の一策を講じてもらいたい
暴落に暴落を續けて殆んと停止する處を知らざるは商價であつた斯くては養蠶家も問屋も製糸家も皆三すくみだ桑畑を掘抜き養蠶業者續出せん
銀行休業より起る悲喜劇は様々である某銀行の重役の如き一面に銀行を休業させて萬人に迷惑を掛て居りながら半面にはおめかけを蓄て酒色に沈溺して居ると云ふ世の中だ
よい面の皮は株主と預金者である
平第三學校通學路問題で數回會議を開き議員一同の實地調査等アヲル方法を盡して最後に正門へ直通と決す某氏は此の道路を感憤道路と命名せよ
明十六日地方女子教育界の恩人酒井平陽女學校長の教化を受けし子女が報恩の爲め同校々庭へ銅像を建設し其の風貌を永遠に傳へんとす師弟の情誼の擧あるは意を強くして可なり
現代の專業家として本縣とは極めて縁故が深かつた磐城の社長淺野總一郎翁八十三歳の高齡を以て去る九日眠るが如く逝く翁は磐城の社長として令名ありしは勿論小名濱築港工費へ百萬圓の寄附を快諾し商港出現の產婆役として本縣人の尊敬厚かりし人今や幽明所に異す謹んで吊意を表す

としたいとの希望で村内四十餘名以上有志家を訪問し同意を得たの見込で盛會を豫想されて此度内郷村へ婦人修養會を創立し去月十二日大字小島に於て之れが發會式を挙げた出席會員數十名來賓には内郷高木校長村會議員村農會議員其他有志者等式後高木校長吉田庄太郎氏の女子教育の先覺者として地方より多大の尊敬と其德望有意義なる講演に大内夫人等あり且つ餘興數種あつて平陽女學校校長酒井ミヨ子女士の銅像建設は豫て同校卒業生及職員生徒等が發起し各方面の贊助を得て努力の結果此の程完成したので明十六日午前十時地方の名士數百名を招待し同校々庭に於て盛大なる除幕式を舉行する等

元常磐毎日印刷所が
磐陽舎活版所と改稱し
平南町に移轉開業

敏速丁寧をモットーとして
各種印刷物の依頼に應ずると

大正十二年より平陽の新聞著者第一線に立ち數名の職界に其名高き平町長橋川崎工を指揮監督すると共に文治氏經營の常磐毎日新聞撰、植字其他あらゆる方面の印刷に従事し便宜上常磐に涉り自身活躍し決して人毎印刷所の名稱の下に同任せと云ふ無責任な事は絶社の新聞印刷は勿論、廣く對にしない熱心家である川一般印刷物の業務に従事し時氏と絶縁後前記の場所其の美術的技術は常に多數移轉し本だ引越荷物や工場同業者より羨望視されての整理も付かざる内より各るた鈴木實氏は或る事情の種印刷物の注文殺到し同氏ため川崎氏と絶縁し今回平を面喰はせる盛況は此れ明南町三十番地(上田外科醫に氏が信用の厚さと業務に院)の西隣に移轉磐陽舎活版所なるを社會が認めて版所と改稱し開業した、由ると云ふ事實を裏書するも來印刷物は云ふまでもないのである

正確にし鮮明敏速にして町向進取の氣鋭に富む氏は現學、期日の的確にして價格下の盛況に甘せず層一層疊の低廉と云ふ三條件を具備腕を振へ蓋せる事業上のせざれば依頼者は満足せざる新智識を傾注し業務の一大るものであるが、磐陽舎印刷業務上些の遺憾鈴木氏は人も知る如く印刷なきを期すべく種々考究中技術の優秀なる茲に喋々すの由なれば今後の磐陽舎活版所までもなく、同業者中種版所が如何なる發展飛躍を見る温厚篤實なる紳士になすか同業者は勿論一般對しては熱誠自ら職工服を

看護婦派出は何時でも迅速にお需に應じます

平看護婦會

會長 清野キヨ

平南町(電話二〇七番)

お茶の御用命は是非弊店へ

弊店は實家が静岡本場で茶問屋を致して居りますので極く安くオイシイ眞の生一本のお茶を大勉強で御用命に應じます

何卒御引立を願ひます

静岡本場 小笠銘茶 舖

大角茶舖

平町搔槌小路
(菊地自動車店前)

銘酒 近藤

馬目支店
平田町
電話二五四番

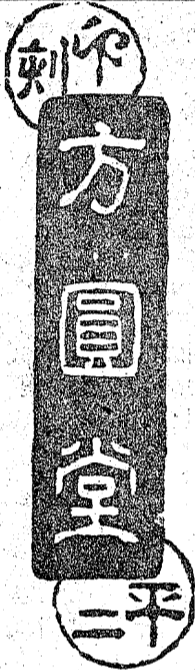
洗濯物の

御用は

親切……丁寧……迅速の

三拍子揃った

平町搔槌
小路の 海老原洗濯店



書籍雜誌 商

文房具

平町四丁目
マルトモ 柴田書店
電話一八五番

大豆小麥等の原料は自家生産品を使用し努力も又自分でなし得る、原料品たる小麥は今が蒔き時であります

自家用

醤油醸造法指導

◇一升の醤油は十三四錢で出来る、詳細は御希望により出張指導致します

石城郡内郷村御所
麴製造元 菅本嘉吉

良品廉賣に勝る商略なし

磐城平町五丁目

磐城セメント株式會社特約代理店

和洋銅鐵 久釜屋商店
金物問屋

電話 九番 九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は久の生命なり

内外科 一般
小兒科 一般
佐藤醫院
常磐線泉驛前
電話一四番

蒲鉾、さつまあげ
折詰仕出し

例年の通り御用命を願上ます特に本年は時節柄大勉強を致します

平町二丁目
藤市蒲鉾店
店主 遠藤市松
電話三〇五番

清新な客間と藥湯が皆様の御清遊を御待してゐます

平町城山
聚樂園

園主 飯田近治

内外科 一般
産婦人科 一般

阿部醫院
常磐線泉驛前

市原醫院

平町田町(電話二二四番)

内科、小兒科 市原卯太郎
外科、一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋毒 市原三三男

入院隨時